

真の喜びと賛美(ルカ 1:39-55)

皆さんの祈りに支えられて英国の短期宣教を恵みのうちに終えて帰ってくることができました。そこに行くときに、聖日のメッセージを握って行きました。5000 未伝道種族のところでのちの運動が行われることが神様の願いであり、そのために宝のような弟子が隠されていて、しかも絶対備えられているという言葉が握って行きましたが、最初に予定していたスケジュールとは全く異なることになり、雰囲気もこちらで予想していたこととは全然違う雰囲気からスタートして、来ると思っていた人たちも来ませんでした。そういう状況の中でも不思議なことにその約束を握っていたので、こういう状況の中でも弟子は絶対に備えられているという信仰は薄れることがなく、最終的に神様の不思議なみわざ、備えを見て体験し、また契約の成就を見ることができました。それはウェールズという地域に限られることなく日本の 47 都道府県、皆さんの現場においても同じことに間違いはないということを確認してまいりました。

最初は 50 人ぐらいの現地の白人の牧師たちが集まる予定でしたが、コミュニケーションの問題なのか、そういう人数でもなく、最初の集会の場所の礼拝堂が、礼拝堂を私たちに提供するだけのような感じの状況でした。なので、そこの副牧師が参加する意味もないし、礼拝堂を貸すだけのことなので、ここの音響のシステムをいじることができるかと言われたときに、「いいえ、できません」と返事したら、ならば音響マイクのことだけを私は面倒をみるよというような心構えで集会に参加されました。だから、集会に参加したわけではなく、仕方なくマイク、音響のことでそこに来ている感じでそのような心構えだったのに、でも福音のメッセージがその人に刺さって、他の人よりその人に福音が正確に入って、また聖書的な伝道運動に対して理解を示すことになり、バーミングガムに戻って来て、その翌日 2 時間かけて一人でそこまで来ました。話を聞いてみたら、担任牧師がチームの食事を奢りなさいということでお金をもらってきたそうです。それで、できれば 4 月に宣教大会を兼ねて韓国に来てもらって、直接その現場を見るのはどうですかと言ったときに、ぜひスケジュールを調整してそうしたいんですよという思いでした。その人の名前はエルロードという牧師なのですが、南アフリカ共和国出身でウェールズに来てそんなに経ってないようです。でも、その人がやぐらとしてしっかり立つことになれば、イギリス全体に影響を及ぼすことになるのではないかと期待しています。だからいろいろなことがあるにも関わらず、弟子は絶対備えられているということを確認することができました。それで、その場でもしその人が韓国に訓練、また現場を確認するために来るとき、その飛行機代はレムナント教会で用意しますということになりました。それは感謝のことだし、それで私たちがウェールズを担当するわけではありませんが、このような神様の導きがありました。ウェールズはイギリスなのですが、イギリスは 4 つの国が一つになってイギリスになったので、イングランドとウェールズとは仲が良くありません。そういう事情などがあったので、とにかくとりあえずウェールズのことを覚えて祈っていきたくと思います。そして、そこにタンザニアからの宣教師、また黒人の重職者が一緒に来ており、交わる機会がありました。いろいろなお話をしている中で、タンザニアの RU 神学校の運営理事会のメンバーに入ってもらえませんかということで、そのためにまず月 3 万円ぐらいサポートしながらアフリカのタンザニアの神学校と関わることになりました。それも神様の導きであり答えだと思いますので、タンザニアのことも覚えて祈っていきたくと思います。237 の中でひとつの国を選んで祈りましようと言っても皆さんがしてないので、このように 14 時間飛行機に乗って行って帰ってきて、やっとひとつの国が私たちの祈りの課題の中に覚えられることになるのかなと思いました。ウェールズは英語を喋る国なので、英語を喋る人は特に重荷をもって祈ってください。ハヨン、わかった？アフリカは英語とスワヒリ語か何かで、最近の Google 翻訳のアプリを見ますと、どこの国の言葉でもその場で翻訳できるし通訳もできるので、その黒人の重職者に早速スワヒリ語で訳して送ったらとても喜んでくれました。なのでアフリカのタンザニアのことも皆が祈るべきでしょうけれども、誰かが重荷に思っ「やっと私の国が来たんだ」といまい何か示される人は、特に重荷をもって祈っていただきたいと思います。それで、そのエルロード牧師のおあかしを聞いているうちに、パウロがルステラというところで石を投げられて死にそうになったにも関わらず、またその現場に戻ったのは、テモテという弟子を見つけたからなのです。その弟子を見つけたときのパウロの心境は、まだまだそこまで及ばないでしょうけれどもその喜びは自分の命に代えられないものだったのかなということを感じました。エルロード牧師のおあかしを聞いているときに、ものすごく心から喜びが沸き起こるようなことを感じましたので、なるほど、神様が備えられた隠されている宝なんだ。だを見つけたというときの喜び

がこんなものなのかなということも経験しましたので、これから皆さんがおあかしを聞くだけでなく、皆さん自身の喜びにしていきたいなとそう思います。神様は皆さんにも必ずそのような喜びを備えていらっしゃることを信じましょう。

その弟子との出会いの喜びのためにも、私たちはまず基本的にクリスチャンとしての喜び、またその喜びによる賛美を回復しなければなりません。真の喜びと賛美の人には、状況などは問題になりません。そして、クリスチャンが真の喜びと賛美を本当に持っている場合、人が寄ってくるようになり、そのことのできる霊的オーラがその人には現れることとなります。なので、ぜひ真の喜びと賛美を回復するクリスチャンになっていきたいと思えます。いつ信者がそのような喜びと賛美の主人公になり得るのでしょうか。今日の聖書の箇所を見ますと、キリストがお生まれになるというお知らせを聞いてアーメンと信仰告白しているマリヤの親戚、6か月前から絶対妊娠することができないと思われていたエリサベツという親戚の人がいま体内に子どもを身ごもっている状況です。そのエリサベツのところマリヤが訪問しました。するとマリヤが入って来た途端にエリサベツが聖霊に満たされて喜んで、胎内にいた赤ちゃんも喜んで踊っていました。それが本当の喜びです。そこから真の喜びが何なのか、どういうものなのかが読み取れるわけです。マリヤが来たわけではありません。私の主の母が来ていると告白しました。もうキリストが身ごもりました。そのマリヤが来たとき、キリストがそのおうちを訪問したことと同じことなのです。私のところにキリストが来られたということで喜ぶ姿が見られるわけです。そして、その後、マリヤはそのキリストが自分の体内に身ごもっているということに対して神様に賛美を捧げました。そこに真の喜びと真の賛美があり、すべての暗闇が砕かれて、いのちの光が輝き、いのちの運動につながる、そういう祝福をそこに見ることができるわけです。

つまり、何が本当の喜びでいつその喜びを回復することができるかと言いますと、

1. 人はキリストに出会うとき、真の喜びを回復する。

第一に、人はキリストと出会ったとき、真の喜びを回復することができるようになります。

もう一度言います。人はキリストと出会ったときに、それ以外の喜びは本物の喜びではありません。別に喜びを否定するつもりはありませんが、その喜びにうっかり酔っていると真の喜びを逃してしまう可能性もあります。紛らわしいことになり得るものなのです。真の喜びは、人がキリストと出会ったときに与えられるものです。キリストを身ごもっているマリヤがエリサベツの家を訪問したとき、そこに今までにはない不思議な喜びがあふれ出て、踊ってその喜びを表現することが見られるわけです。私たちの人生はいろいろなことがあります。このような真の喜びとは遠ざかって全く縁のないため息の人生ではないでしょうか。私たちは神様のいらっしゃらない、神様と全く関係ない自分自身を中心にして、自分の願いが成就されれば願いが叶えられれば、そこに喜びがあるだろうと思ってみな頑張っています。霊的な世界と全く関係のない肉の裕福さ、経済的な豊かさ、そこに幸せがあるだろうと思ってみな頑張っています。そして世の中で成功と言われているものは、本当は偽りの成功なのに、その世の成功に喜びを求めているわけです。しかし、冷静に考えてみましょう。そこに本当の喜びはあるのでしょうか。そこに喜びを求めつつ、でも人々は消えない不安を抱えて、心配の中でため息をしながら人生を生きています。しかし、喜びを求めていたのに、その求めていたところから喜びが得られないので、結局はアルコールやドラッグ、ギャンブル、趣味の方に喜びを求めて走っていくようになります。それがエスカレートしていきますと、そこから抜けられない依存症にもなってしまうものなのです。そして、それを煽るために、その泥沼から抜け出せないように、宗教や偶像崇拜や占い等々で人々をぎゅーっと締め付けているのが人生そのものなのです。結果、喜びを求めているにも関わらず、その喜びは見当たらないまま精神的に崩壊し、体も病気になり、家庭も人生のあらゆる部分が崩壊していくことになってしまいます。

1) 真の喜びのないため息の人生

だから残るのはため息しかありません。幸せになりたい、喜びを味わいたいという願いはあるものの、全くそれとは真逆の現状に悩まされるのが私たちの人生ではないでしょうか。なぜみな幸せになりたい、喜びたいと願っているのに、そして頑張っているのにそうならないのでしょうか。

2) サタンの罠

それは誰もわかっていない悪魔サタンの罠にはまっているからなのです。神様といっしょにいるべき人間が神様を離れて、その結果、悪魔サタンの奴隷となり、地獄の運命に囚われているから、いくら頑張っていくらもがいても幸せとは縁のない人生、ため息の人生を生きるしかありません。人間関係にひびが入って、人が一番嫌な存在、人が怖くなり嫌になり、それでも人と一緒に暮らさないといけない。そういう中で精神的にまいってしまう、そのような人生を送るしかありません。どこに真の喜びがあるのでしょうか。たまに自分の願い通りになる場合があります。一瞬うれしくなり、喜ぶこともあります。しかし、それは本当に一瞬だけなのです。なぜでしょうか。なぜそれが延々と続かないのでしょうか。真の喜びではないからです。

3) 人の絶対必要とキリスト

なので、人に絶対必要なのは、この悪魔サタンの罠から抜け出すことです。その道は一本しかありません。人に絶対必要なのはキリストなのです。キリストというのは、悪魔サタンの頭を踏み砕いて勝利なさった真の王様。人を罪とのろいから完全に解放させる真の祭司。人が神様と出会っていのちが得られる真の預言者。その3つの役割をいっぺんに永遠に完璧に全部成し遂げられた方をキリストと言います。人間に絶対必要なのは、このキリストなのです。神様はありがたいことに、幸いなことにため息しかなない、滅びるしかなない私たち罪人のために、この希望であるキリストを送ることを約束されました。そして、そのキリストが約束どおりに来られました。なので、そこに喜びがあるわけです。キリストが来られること、キリストが来られたこと、そこが真の喜びなのです。

4) 聖霊による制限のない喜び

そして、その喜びは人間の理解と知識によって得られるものではなくて、聖霊様によって与えられるものなので、制限のない喜びなのです。聖霊様がこのキリストを私たちに教えてくださいます。聖霊によらずにはキリストを知ることができません。なので、聖霊によってキリストを知り、聖霊によってキリストを喜ぶこととなりますので、この喜びは誰も奪うことができないし、誰も止めることもできないし、何によっても制限されるようなものではありません。これこそが真の喜びなのです。

5) 福音のみことばを通してキリストに会える

どのようにしてこのキリストに出会うことができるのでしょうか。断食をしながら祈れば、修行すればこのキリストに出会えるのでしょうか。教会に通えばこのキリストに出会うのでしょうか。とんでもありません。神様は聖霊を通して私たちのため息の人生がキリストと出会い、真の喜びを回復するために福音のみことばを与えられます。キリストのいのちのみことばを与えられます。なので福音のみことばを通してこのキリストに出会います。だから言葉を変えますと、人間的な条件は全く関係ありません。勉強が足りないからキリストと会うことが難しいわけでもなく、お金がいっぱいあるからキリストと出会いやすいということもありません。真面目な人間がキリストと出会い、ふざけた人間はキリストと会うことが難しい。そういうこともありません。人間的な条件とは全く関係なく、神様が与えられた福音のみことばを通してキリストと会うこととなります。

6) 喜びの受け入れ(ヨハネ 1:12)

そのみことばを聞いたときにキリストと出会い、それが心の喜びとなり、だからこそ喜んでそのキリストを自分の内側に受け入れることとなります。それでキリストと会うこととなります。ヨハネ 1:12、受け入れた人々、すなわちその名を信じたものには神の子どもになる特権が与えられる。神様のみことば、福音のみことば、救いのみことば、キリストのみことばを聞くこと、これこそが幸いです。そこに真の喜びを回復するためのキリストとの出会いの祝福があるわけです。なので、真の喜びを回復して、勝利ある人生を歩んでいくために、他のいろいろなことを考えることなく、みことばだけに集中しましょう。キリストを世に送って、そのキリストによって私たちのすべての問題を解決し、永遠のいのちの祝福が与えられます、という福音の神のみことばに耳を傾けるときに、聖霊様の力によってキリストと会うこととなり、なるほど、待ちに待っていた私の希望、真の喜びであるキリストがいよいよ来たんだね、来られたんだねということに気づくこととなります。それが喜びなので、いやいやではなくて、受け入れてあげましょうではなくて、礼儀

や義理によって受け入れるのではなく、喜んでキリストを自分の救い主として受け入れることになります。

2. キリストが私に宿る時、真の讃美を回復する。

そして、マリヤのようにキリストを受け入れることで、キリストがこの世に来られて私を訪ねて来られたで終わることなく、自分の内側に入って自分の中に宿ることになります。マリヤはその最初の主人公でした。つまり、キリストが私に宿るときに真の讃美を回復することになります。

エリサベツが喜んで踊った後、マリヤは讃美を捧げました。キリストがこの世に来られただけではなく、そのキリストが自分の内側に入ってこられて自分に宿ることになります。マリヤは肉体的にみごもりました。それよりもっと確実なのは、キリストのみことばを聞いて、そのキリストを救い主として心に受け入れたときに聖霊を通してキリストが永遠に皆さんの内側に身ごもるのではなくて宿ることになります。これをいのち、これを救いと言います。皆さんの人格と過去の心の傷など一切関係ありません。皆さんの汚れた過去など一切関係なく、信じてキリストを心に受け入れたときに古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなります。記憶の脳細胞の中に、過去の汚れたこと、過去の嫌なことなどが残っているでしょうけれども、それはさまざまなこれからの神様のご計画のゆえに許されているだけであって、根本的に古いものは過ぎ去り、全く新しいものに、聖いものに作り変えられることになります。それを讃美と言います。歌が下手でも構いません。キリストが私に宿るときに暗闇が砕かれて、いのちの働きの主人公になるための真の讃美を回復することになります。

1) 卑しい私に

マリヤはこのように讃美しました。これが一体どういうことなのでしょう。私にこのようなことが起こるとは何ということでしょうという驚きのあまりに讃美を捧げます。なぜなのでしょう。こんな卑しい私に尊いいのちであるキリストが宿るなんてありえないことなのにそれが実現されました。そのことでびっくり驚いて讃美を捧げるわけです。これが讃美です。皆さん、皆さんの内側に神様ご自身である万物を造られた創造主である、そして私たちを救うために悪魔の頭を踏み砕いて復活なさった万軍の主であるキリストが皆さんの内側に宿ることに驚いてびっくりして、それが讃美に変わることを経験したのでしょうか。皆さんがキリストを受け入れてイエス様を信じますというのが、そんなに簡単な話ではなく絶対ありえないことなのに、それがありうることになりました。だからそれを恵みと言います。こんな卑しい私に。自分が本当に卑しい人間だということを素直に認められるとき、そこから讃美が生まれます。私はそんなに罪深い人間ではないのに、そんなに悪いことしてないのに... そういうレベルではイエス様を信じるといっても絶対イエス様を信じないといけない理由にはなりません。だから、いつでもやめられるような状態です。私はキリストであるイエス様がなければ希望などありません。卑しい人間です。外見で見たときには認められる人間かもしれません。真面目な人間かもしれません。でも私はわかっています。神を知らずに悪魔の奴隷となって地獄の運命に囚われていることに間違いありません。それは他の人と一緒なのです。刑務所に入っている人間も精神病を患っている人間もドラッグに溺れて命を絶ってしまった人間とも私は一緒です。そこから讃美が生まれのです。でも、残念ながら教会に通っていながらも、自分がこのような卑しい存在だったということを素直に認めることができているのです。だから讃美がありません。歌はあるけれども。聖書に言われている通りに私は自分の罪過と罪と中に死んでいたものであって、その頃は世の流れに従って、神に敵対することばかりに従って、空中の権威を持つ悪魔サタンに従っていた者なのです。知らないうちに。だからを生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれたものであり、I コリント 15:8には、「そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも」とパウロが告白しているように、私はそういう人間なのです。詩篇 51:5には「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました」。私はそのような希望のない卑しい人間です。なのにキリストが私を訪ねてきて、しかもその私の内側に入って私に宿ることになりました。これは計り知れない神の恵みのほかにありません。アガペーの神の愛のほかに何を語るのでしょうか。そして、人間のすべての理解を超えて神様の真の救いの力そのものなんですよ。それでなければ人間が持っているどのような理論、論理、説などでも説明できないし、そこに当てはまらない恵みの神のわざなのです。だから私たちには讃美のほかに表現の仕方がありません。こんな卑しい者に計り知れない神の恵みが臨まれました。

2) 永遠の祝福の人に

そして、その結果、卑しい地獄に行くしかない汚れた人間が新しく作り変えられて、永遠の祝福の人に変えられたことを賛美するわけです。マリヤも言いました。アブラハムとその子孫たちにおっしゃったとおりになりました。アブラハムになんとおっしゃったのでしょうか。あなたは祝福の基となり、あなたを通して世界中のすべての人々が祝福されるよと。それが私に成就したわけです。あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることを分かっていないのか。つまり、あなたを通していのちの水が流れ出て海にまで世界中に流れる存在に作り変えられた。だからエペソ 1:3、天にある霊的すべての祝福が私に注がれている存在になりました。卑しい存在だった私がこのように変えられました。だから賛美を捧げます。私の内側に神の国がしっかり立ち、地の果てまですべての民族、すべての国の人々が祝福されるように、そこに証人として用いられることとなります。だから賛美を捧げるのです。マリヤの賛美の内容はそのような内容でした。言葉を変えますと、キリスト・イエスが私の内側に宿ることで、キリストのからだなる教会となりました。つまり、キリストのいのちの光を放つやぐらとして召されているということなのです。いつ何が起きても天の御国の国籍が与えられているので、天国に入れるように保証されているだけではなくて、このような証人としてのいのちの運動のために人生を歩いているときに、御座がバックになって天の軍勢によってこの道を歩むような存在になりました。それがマリヤの賛美の内容です。

3) 人間の条件と無関係で

特に、この祝福も人の条件とは全く関係なく与えられているものです。だから、マリヤは高慢な人を散らして、富む人も散らして。それはお金を持っているからダメという意味ではありません。そういったもので得られるものではない。それとは関係ないんだ。神様の恵みによるものですよと。それをほめたたえているのです。だから、自分が人間的な条件でこうだあだということに賛美を止められる理由などは存在しません。キリストが私の内側に宿るときに、そのことはどういう恵みでどのような祝福なのかということが分かったときに、しかも卑しい私に起きたので賛美を捧げるしかありません。賛美を他にありません。アブラハムに言われていたすべてが成就することなのです。イエス・キリストを心に受け入れたときにキリストは私たちの内側に入って、身ごもるのではなくて主として宿ることになります。それで私たちは神の神殿と変わることになります。条件、状況、環境によって自分自身を評価する古き人を捨てて、キリストが宿る神の神殿として自分をしっかり取り戻し、自信をもって感謝をもって、だからこそ今まで考えていた自分の人生ではなくて、ミッションの人生を見つけないといけません。福音によって人生を編集してミッションの人生を見つけ出し、やぐらとしての人生をこれから歩いていくわけです。そのように変えられたことを賛美するわけです。うっかりしたらお医者さんになって人生終わるところだったのに。うっかりしたら芸能人になって、大統領になって、国会議員になって、大学教授になって人生終わるところだったのに、ミッションの人生を許してくださりありがとうございます。その神様に賛美を捧げます。うっかりしたら何もかもつぶやきながら、誰かのせい何かのせいにしながら人生終わるところだったのに、環境、状況に構うことなく喜んで人生を生きて行けることになりましたので、なんと幸いなのでしょうか。それがキリストと出会うことであり、キリストが私の内側に宿るということです。イエス・キリストを信じることは教会に通うことではありません。もし未だにまあ、教会に通えば心が落ち着くし、悪いことも少しやめられるようになるしということである方であればそれは宗教なのです。あとで7倍も悪くなります。教会に通っているとしても。信じること、救いは宗教ではなくて生きていらっしゃるキリストが来られて、その人の内側に入って住まわれることなのです。だからキリストをキリストとして救い主して王様、真の預言者、真の祭司として心に受け入れていただきたいと思います。その時から喜びと賛美を回復することになります。

なので、これから皆さんがみことばを聞くときに、みことばを通してキリストに出会うようにしましょう。みことば聞くときに必ずキリストに出会うみことばが聞こえてきます。なので、キリストと出会うことなのでみことばを聞くことを楽しみにしましょう。なぜならキリストと出会うわけですから、楽しみに喜んでみことばに耳を傾けましょう。そうすることで、みことばが心に留まることになり、みことばを心に留めて黙想することになります。黙想は聞いて終わりではなく、キリストと出会ったのでそれを噛みしめることなのです。何回も何回もあらゆる角度から考えてみてください。このような心構えでみことばを聞きますと黙想することになり、それが皆さんの内側で考え、心、たましいを動かす運動になります。そこまでいけば終わりです。そこまでいけば不思議なことに皆さんの周りの人々が伝道対象者に見えてきます。私に絶対キリス

トが必要であったのと同じように、彼らにももちろんキリストが必要だということが見えてくるようになります。だから、いのちの運動につながるようになり、それに伴って加えてすべてが与えられる人生になります。ぜひレムナント教会はそのような証拠を持って47都道府県、1000大学、5000未伝道種族を助ける証人の教会にならなければなりません。神様は必ずそのようになさいますので。

それでキリストが私のなかに生きることを告白して賛美しましょう。先ほども申し上げましたように聖霊が宿っている神の神殿であり、だから聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまで証人となるに間違いのないんだと。それが賛美の内容です。宝くじに当たって賛美するのではなくて。なるほど、卑しい私のような者が神の神殿となり、だから当たり前前に聖霊が注がれて、世界を生かすことができる、日本を生かすことができる存在なんだと信じてください。だから賛美をするのです。それを本当に喜んで賛美を捧げる信者になりましょう。

そのときにサタンのやぐらが崩れます。皆さんの内側に長い間、築かれていたサタンのやぐらが崩れて、神の国がまず皆さんの内側に立つことになります。そのときから周りから見て分かる信者になります。皆さんがいらっしゃる現場からまずいのちの運動、伝道の運動が行われることが聖書的なのです。そこから地の果てにまで進んでいくことが聖書的なのです。皆さんの現場でのいのちの運動をないがしろにして、そこは不信仰で固めておいて、地の果てにまで、47都道府県と語っていても神様は騙されないし、サタンも騙されません。そう思う理由がありません。皆さんがキリストが宿る神の神殿に間違いなければ、そこに必ずいのちの働きが現れるはずなのでそれを祈りましょう。自分の周りにいる未信者が私を通してキリストの福音、みことばを聞いてキリストと出会うことが起きるように期待して祈りました。そこは不信仰のコンクリートで固めているでしょ。ハレルヤといろんな教会の奉仕をしながら献金もするのですが、そこだけは勘弁してくださいと。そこが悪魔の策略です。皆さんが恵まれその結果に繋がらなければ正しい恵みとは言えません。神の神殿だから。信じましょう。聖霊が注がれることになっているので。結果、エルサレムからいのちのわざが行われるようになっているのです。信じて期待して祈って行きましょう。

4) 暗闇が砕かれ、真の癒しによりいのちの光を

皆さんが真の喜びと真の賛美を回復すれば必ず暗闇の力が砕かれて、その結果、神の国のことが起こることになりますので。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。地獄の運命に囚われて、どんなにもがいても抜け出せない罪に囚われていた卑しい私たちに神様は不思議な愛と恵みをもってキリストを送ってくださり、そのキリストが聖霊によって私の内側に宿る最高のいのちの祝福を与えられましたことを心から感謝し、賛美申し上げます。どうかここに集っているひとりひとりがこの真の喜び、真の賛美を回復して、エルサレムから地の果てにまでイエスの証人となる約束の主人公になるようにひとりひとりを祝福してください。それを邪魔するサタンのやぐら、不信仰のやぐらがイエス・キリストの御名によって砕かれるように聖霊様が助けてください。感謝してイエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。